

一過性紅斑

一過性紅斑 いっかせいこうはん

放射線照射による皮膚の紅斑で、一過性のもの。放射線量の増加に伴い皮膚の障害は、軽度発赤、脱毛、紅斑、水泡、潰瘍と進行する。紅斑は、36 Gyの照射で2～3時間後に出現し、一旦これが消滅して（このため一過性と呼ばれる）、2～3週後に赤くなりはじめ、次第に色が濃くなり、その後表皮に色素が沈着してくる。最初に起こる紅斑は血管の拡張が原因であり、次に起こるものは真皮の炎症である。

<登録年月>

1998年01月
